

山中智恵子は、言葉の歌人だった。
それは短歌の世界では得難い存在で、
その歌は心ではなく言葉に飢えていた
人々の心を潤した。

—— 瀬戸夏子
(葉より)

山中智恵子歌集
水原紫苑 編

書肆侃侃房

言葉が言葉としてこの世に現れる瞬間、
人間が天地の間に存在として立ち上がる
瞬間を問うのである。

—— 水原紫苑
(編者解説より)

山中智恵子歌集
水原紫苑 編

書肆侃侃房